



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/17 (月)	+ 1,800	▲ 23,900	▲ 22,100	国庫短期証券 発行・償還 (3M) 国債発行 (20年)	CP等買入 ▲ 500 国債補完供給 + 200		日: 日銀金融政策決定会合 (1日目)
1/18 (火)	+ 2,000	+ 2,000	+ 4,000		共通担保 ▲ 3,800		日: 日銀金融政策決定会合 (2日目) 鉱工業生産 (11月)
1/19 (水)	+ 1,000	+ 2,000	+ 3,000				英: CPI (12月)
1/20 (木)	トン	▲ 25,000	▲ 25,000	国庫短期証券 発行・償還 (1Y) 流動性供給			日: 貿易収支 (12月) I-P図: CPI (12月) ECB議事要旨 (12月)
1/21 (金)	トン	+ 2,000	+ 2,000				日: 全国CPI (12月) 米: 景気先行指標総合指数 (12月) I-P図: 消費者信頼感指数 (1月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初536兆9,400億円から始まった。13日に5年利付国債の発行及び税揚げがあり、535兆8,000億円まで減少した。14日には国債買い現先オペがエンドを迎えたことで534兆9,100億円まで減少し越週した。無担保コールON物加重平均金利は、週初、前営業日比△0.006%の△0.014%から始まった。積み最終週の調整のため、一部の地銀業態では調達量を減少させた一方、都銀・信託・証券業態の調達意欲は依然強く、週を通して底堅く△0.021~△0.014%で推移した。積み最終日となる14日は複数日積みであることから全体として調達量を抑制する動きとなったが、一部には積極的な調達が残り、同金利は前営業日対比+0.001%の△0.020%で越週した。ターム物は新積み期物スタートの1W~1M物を中心に、主に△0.040%~△0.005%の水準で出合いが見られた。来週の主な予定は、国内では17・18日に日銀金融政策決定会合、21日に全国CPI (12月) の公表、海外では20日にECB議事要旨 (12月) の公表や、21日に米景気先行指標総合指数 (12月) の公表などが予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.085 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.080 ~ 0.000

<レポ>

積み期終盤となる今週の足許GC取引は、週央まで△0.09%~△0.08%の水準で推移。新積み期にかかる14日受渡しでも同水準で取引された。短期3Mの発行日となる17日受渡しでは、△0.08%近辺の出合いが中心となった。SC取引では2年428~432回債、5年137~149回債、10年332~365回債、20年164~178回債、30年69~72回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

<C P>

今週の入札発行総額は約1兆600億円で、週間償還額 (約5,500億円) を上回った。発行市場は、鉄鋼業や電気機器等の複数の業種で大型案件が見られたことから、マーケットは活況となった。発行残高は先週末の25兆3,376億円から、13日時点で25兆4,953億円に増加した。発行レートは、引き続き、希少銘柄等においては深いマイナスレートでの出合いも見られたが、大型発行案件については浅いマイナスレートでの出合いとなった。14日にCP等買入オペが予定通り5,000億円でオファーされた。結果は、按分レート△0.012%・平均落札レート△0.010%と前回 (按分レート△0.014%・平均落札レート△0.011%) 比で上昇した。

来週の週間償還額は、約6,200億円程度となっている。発行市場は、5・10日発行が予定されるため、取引は活況が見込まれる。発行レートは、コロナオペ担保目的等の対象銘柄や希少銘柄等では、引き続き深いマイナスレートでの出合いを予想する。

<TDB>

1月14日の3M1051回債(2022年4月18日償還)の入札は、最高落札利回り△0.0922% (前回債△0.0993%)、平均落札利回り△0.0970% (前回債△0.1054%) となった。来週は1月19日に1Y、1月21日に3Mの入札がある。